

恵庭市立柏陽中学校から職業体験の生徒を受け入れました！

新井 雅博

昨年度の職業体験の生徒受入に引継いで、平成 24 年度も 10 月 23～25 日の期間、中学生 5 名の受入れを決定し、そのカリキュラム作成等打合せを行った結果、漁川に遡上するサケの調査時期であったため、漁川フィールドワークやサケの脊椎骨計数作業など調査の一部を体験してもらうことと、体験の結果をレポートにまとめて報告することになりました。また、5 名のうち 1 名は、都合により 3 日目のみの参加となりましたが、別メニューで対応することとなりました。

第 1 日目は、緊張気味に現れた生徒 4 名を、永田場長を始め、場内職員に紹介し、オリエンテーションを行いました。次にさけます・内水面水産試験場の主な研究業務について説明をした後、内藤主査が場内の施設を案内しました。

午後からは、高津職員の指導により、雨模様のため屋内での飼育魚の給餌<下の写真>やへい死魚の除去作業などの実習を行い、生徒達は真剣に取り組んでいました。



第 2 日目は、午前中の 1 時間ほどを試験研究の計画立案から成果発表までの過程について、研究成果発表会の課題を例に説明を行い、その後、広報普及用として配布している機関名入りの特製しおりの製作体験を行いました。次に神力主査、安富主査、安藤主任が、サケの脊椎骨など形質サンプル作製作業

の実習を行いました。手際の良い作業に感心していたようです。包丁捌きが妙に慣れた生徒もおり、雄・雌のサケをそれぞれ 1 人 2 尾ずつ捌くことができました。 <下の写真>



また午後からは、漁川の畔で音響カメラによるサケ遡上数調査などを見学、捉えられた魚影を熱心に見て感動した様子でした。 <下の写真>



最終日には、別メニューをこなした1名を加えて、体験感想の発表を行うため、午前中はそのまとめを佐々木主幹と内藤主査から指導を受けながら、パワーポイントソフトを使い、発表用プレゼンファイルを作成しました。

3日目には、パソコン操作にもかなり慣れた様子で、楽しみながらもスムーズに作業をこなしていました。

その後、佐々木主幹の司会により、いよいよ各自が発表することになりました。そこに柏陽中学校から担当の大西先生も参加し、職場体験に協力頂いた職員も交え、生徒の発表を聞くことになり、緊張しつつもそれぞれ、個性のある表現で、まとめ上げていました。

<下の写真>



—大西先生：談—

「3日間、いろいろとご配慮いただきありがとうございました。素晴らしい体験ができ、職員の皆様に感謝いたします。」

最後に場内職員と意見交換などを行い、3日間の充実した体験ができたのではないでしょう。

佐々木主幹、内藤主査、安富主査、神力主査、安藤主任、高津職員のほか、職業体験に御協力頂いた皆様に感謝申し上げます。

(総務部 あらいまさひろ)